

令和3年度 奈良看護大学校学校自己点検・自己評価

1. 学生数（令和4年3月31日現在）

学年	1年生	2年生	3年生	合計
人数（名）	55	79	70	204

2. 職員数（令和4年3月31日現在）

職種	校長 (兼務)	事務長 (兼務)	専任教員	事務職員	図書館 司書	心理士	合計
人数（名）	1	1	13	4	1	1	21

3. 国家試験合格状況

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
受験者（名）	79	78	66
合格者（名）	78	76	65
合格率（%）	98.7	97.4	98.5

全国平均 91.3%
新卒者平均 96.5%

4. 卒業生の進路

卒業生 66名	進学	就職			その他
		県立病院機構	県内医療機関	県外医療機関	
人数（名）	0	41	54	11	1（国試不合格）
割合（%）	0	62.1	81.8	16.7	1.5

5. 退学・休学・卒業延期者の状況

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
退学（名）	4	1	4
休学（名）	0	3	1
卒業延期（名）	10	2	4

退学者の内訳

休学から復学せず退学 2名
2年生 1名（再履修不合格）
1年生 1名（進路変更）

6. 入試の状況

入学年度	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	受験者	合格者	入学者	受験者	合格者	入学者	受験者	合格者	入学者
指定校推薦	35	35	35	/	/	/	/	/	/
公募推薦	29	28	27	27	22	22	36	31	31
一般①	48	32	18	46	36	25	58	35	27
一般②	/	/	/	6	5	4	22	10	6
一般③	/	/	/	9	8	7	/	/	/
合計	112	95	80	88	71	56	116	76	64

7. 教職員による学校運営評価

教職員 17 名を対象に、学校運営に関する自己評価を実施した。(令和 4 年 2 月～3 月実施・回答 11 名・回収率 64.7%) 評価項目は、「Ⅰ. 学校運営」「Ⅱ. 教育課程・教育活動」「Ⅲ. 入学・卒業対策」「Ⅳ. 学生生活への支援」「Ⅴ. 管理運営・財政」「Ⅵ. 施設設備」「Ⅶ. 教職員の育成」「Ⅷ. 広報」「Ⅸ 地域との連携」の大項目 9 項目、下位項目 44 項目とし、評価基準は 4 : そう思う～1 : そう思わないの 4 段階とした。「Ⅸ地域との連携」については、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により評価項目から除いている。(図 1、資料 1 参照)

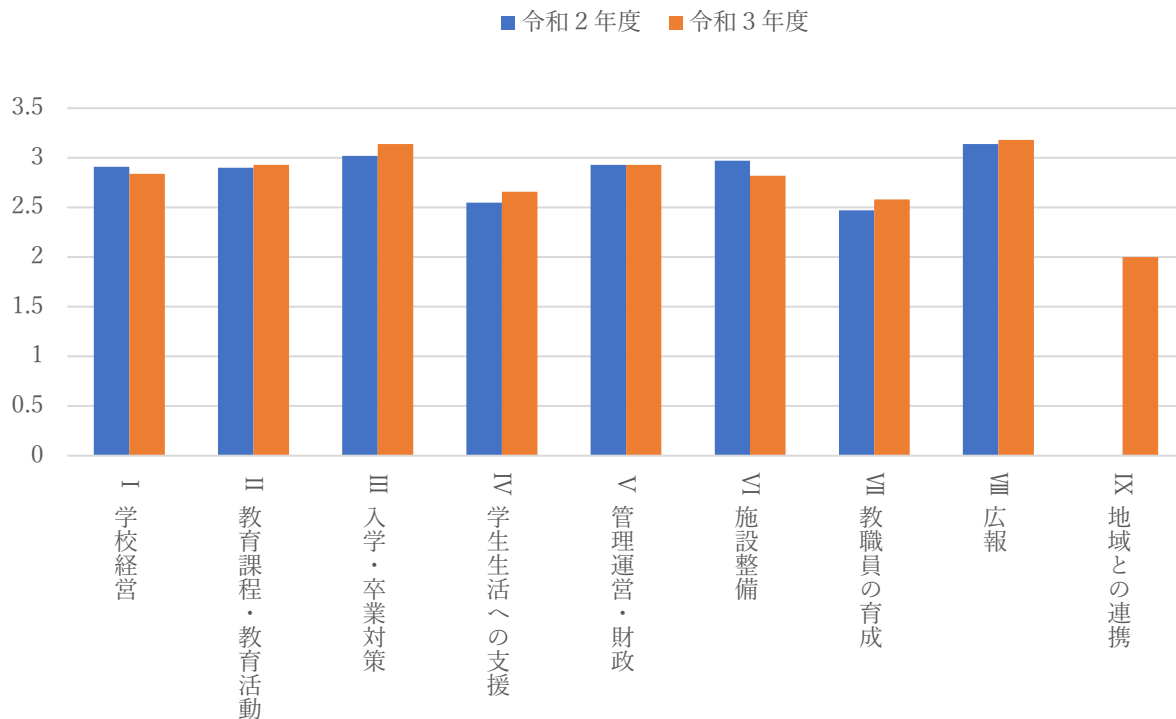


図 1 教職員による学校運営評価

全体的に前年度と同じ傾向であった。前年度と比較し、0.2 ポイント以上上昇した項目はⅡ教育課程・教育活動の「効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。」、「未修了科目の原因分析を教員側と学生側とで実施し、対応策を講じているか。」、「実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者などの同意を得た上で、実施しているか。」、「Ⅲ入学・卒業対策の「中途退学者を少なくする工夫・努力をしているか。」、「Ⅳ学生生活への支援の「学生の心身面での健康管理体制が整っているか。」、「学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じているか。」、「前年度の卒業生の就職先での評価を把握し、問題点を明確にしているとともに、その改善策を講じているか。」、「Ⅴ管理運営・財政の「災害など非常時の危機管理体制がととのっているか。」、「Ⅶ教職員の育成の「研修や出張で学会などに参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。」、「教員の授業をほかの教員が参観、講評できる制度があるか。」の 10 項目であった。0.2 ポイント以上低下した項目はⅡ教育課程・教育活動の「シラバス（授業計画書）は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致しているか。」、「学生指導において、学生に対して人権への配慮がされているか。」、「Ⅳ学生生活の支援の「学生のボランティア活動などの自主活動を支援しているか。」Ⅵ施設整備の「校舎は、耐震性に優れ、バリアフリーなどに配慮された構造になっているか。」の 4 項目であった。

◆今後の課題

①学校運営評価の項目見直し：厚生労働省が公表している「看護師養成所の自己点検・自己評価指針」に基づき、評価項目を見直す。（資料2参照）

②回収率の向上：学校自己点検、自己評価の考え方について学習し、運営幹部だけでなく、全ての教職員が大学校の自己点検、自己評価に係る必要性を周知する。また、自己点検・自己評価の時期や方法をシステム化し、適切な時期に評価が行われるようにする。

8. 授業評価

教育課程および講師の教育活動の評価の一環として、学生による授業評価を行った。各教科最終授業後に google forms によるアンケート評価を実施し、評価は、4：かなりあてはまる～1：まったく当てはまらない の4段階とした。（資料3参照）

87科目の講義に対して授業評価を実施したが、回収率が0～95%と大きく差がでた。原因としては①新型コロナウイルス感染症の影響により、授業計画や実習計画が大幅に変更され、授業終了日が学生によって異なった。②学生への説明、回答促進の働きかけ不足 ③google forms を使用したことで、回答数がタイムリーに確認できず、教員個々の意識や責任感の薄れがあった。前年度と比較して大幅に低下している科目は全て、回収率が30%未満であった。専門基礎分野の疾病論や専門分野Ⅱの方法論については、専任教員ではなく非常勤講師が担当しており、1科目あたりの講師数が7～8名になる科目もあり、講師個々の授業評価にはふさわしくない科目もある。

◆今後の課題

①回収率の向上：google forms の集計をタイムリーに行うシステムができるまでは、自記式アンケートとする。講師評価の目的ではなく、学生自身の「授業リフレクション」「授業参画」の目的を強化することで、提出をもって履修完了とする。

②講師評価から授業リフレクションへ：非常勤講師が130人前後いることを踏まえ、「授業評価」を講師個々の評価の目的ではなく、学生による「授業リフレクション」「授業参画」の意味合いを持たせる。また、本校のカリキュラムポリシーでもある「演習や実習の強化」を評価するために、講義だけでなく、演習、実習についても「授業リフレクション」を導入する。（資料4）

9. 学生満足度調査

令和3年度に在学する学生206名を対象に、学生参加による、学校づくりの基礎資料とすることを目的に「学生満足度調査」を実施した。（令和4年2月～3月実施・回答110名・回収率53.4%）評価は大項目8項目、下位項目62項目とし、評価基準は、4：そう思う～1：そう思わない の4段階とした。

全ての項目において、前年度を上回り、全体の平均では0.3ポイントの増加を認めた。大項目別平均点で最も増加している項目は「D教員について」であり、2.94→3.38へと0.44ポイント増加した。

表 大項目前年度との比較

大項目	令和2年度	令和3年度
A 学校教育について	2.95	3.26
B 授業について	2.82	3.19
C カリキュラムについて	2.90	3.15
D 教員について	2.94	3.38
E 学生支援システムや各種サポート	2.61	2.94
F 学生生活全般について	3.06	3.20
G 進路・就職サポート	2.98	3.18
H その他	2.65	3.03
全体平均	2.86	3.16

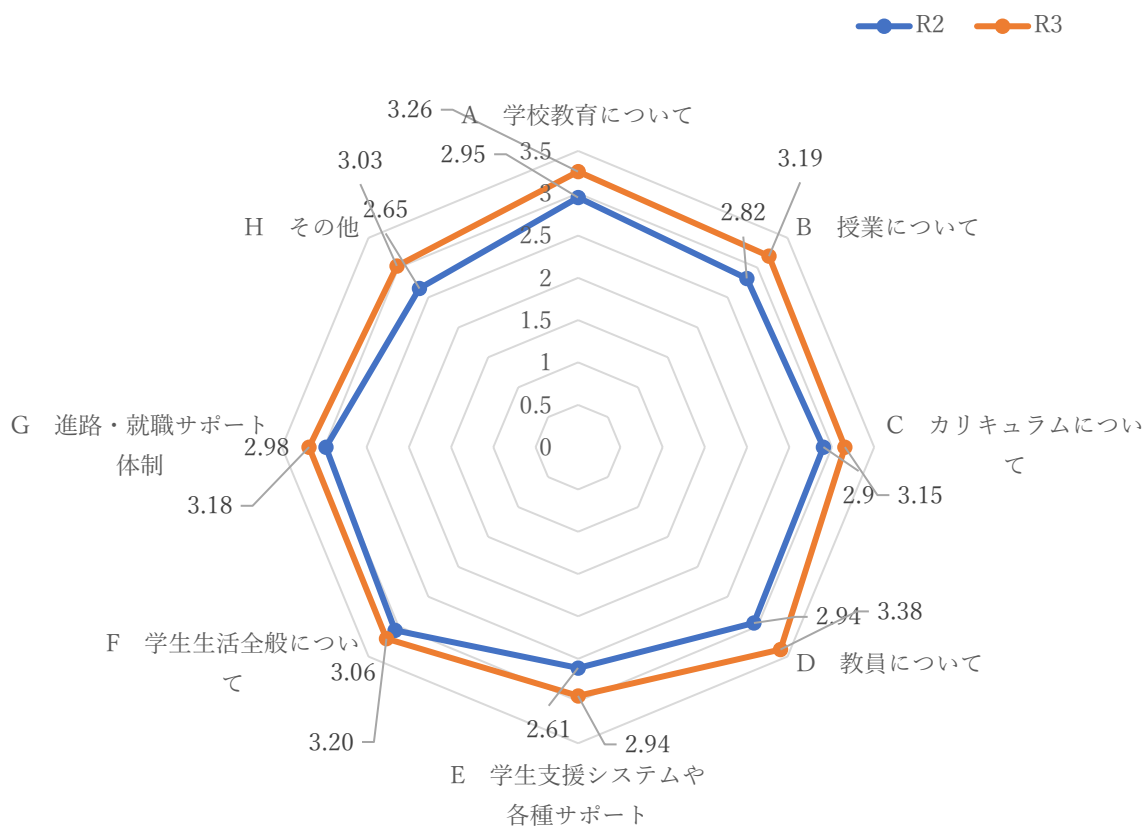
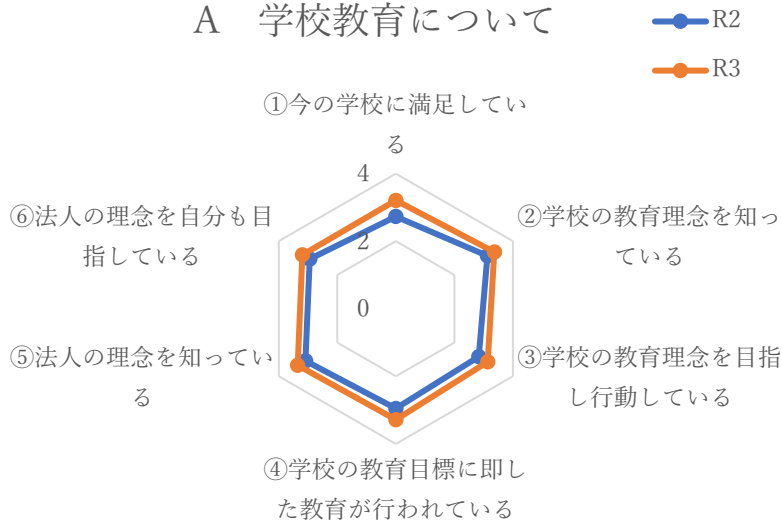


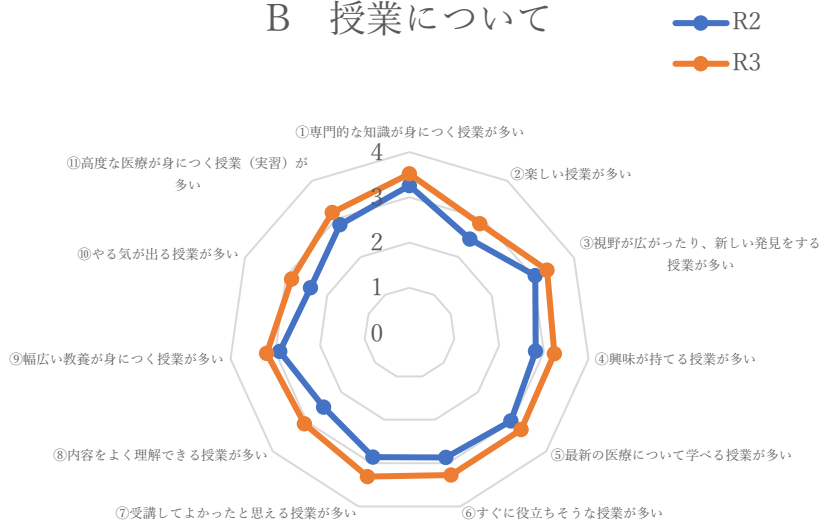
図2 学生満足度大項目平均点の比較

A 学校教育について



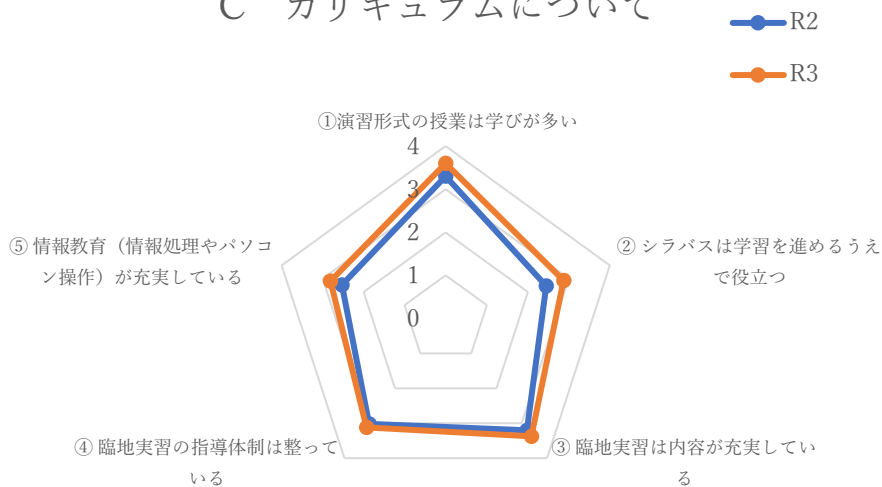
全ての下位項目で前年と比較して向上している。なかでも、①「今の学校に満足している」が2.73→3.20と0.47ポイント増加した

B 授業について



全ての下位項目で前年と比較して向上している。⑥「すぐ役立つような授業が多い」⑦「受講してよかったと思える授業が多い」⑧「内容をよく理解できる授業が多い」⑩「やる気が出る授業が多い」の4項目は0.4ポイント以上増加している。

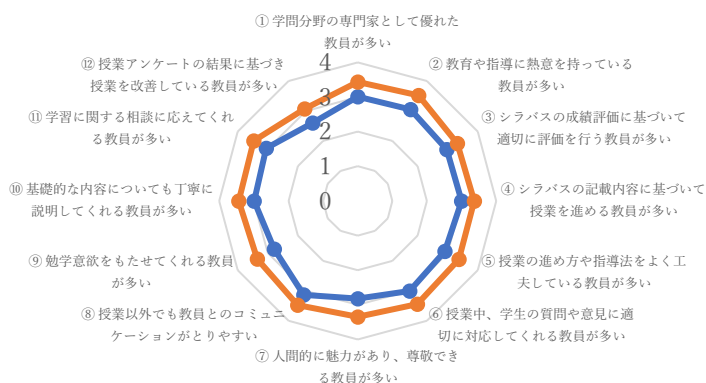
C カリキュラムについて



全ての下位項目で前年と比較して向上している。②「シラバスは学習を進めるうえで役立つ」では2.45→2.87と0.42ポイント増加している。シラバスについては、教員の自己点検との乖離が見られる。

D 教員について

● R2
● R3



全ての下位項目で、前年と比較して向上している。大項目の中で最も伸び幅が大きく、バランスよく向上している。授業評価の活用についてが最も低値であり、授業評価の課題と一致している。

E 学生支援システムや各種サポート

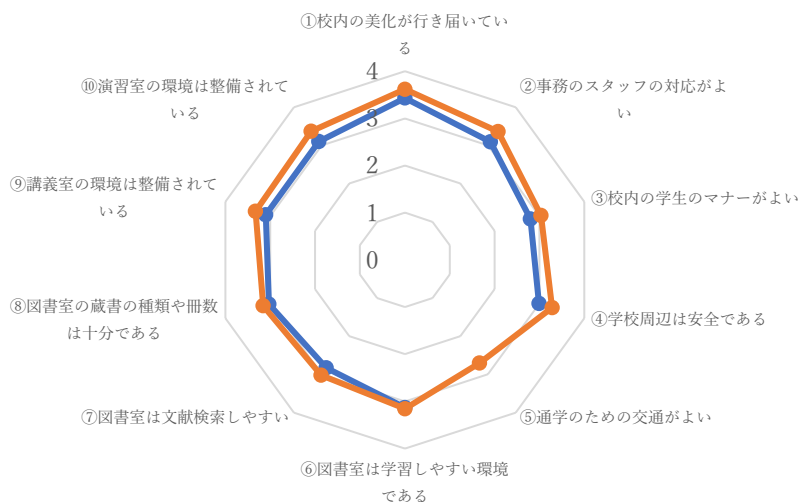
● R2
● R3



全ての下位項目で、前年と比較して向上している。⑤「学校祭へのサポート体制」⑨「サークルなど課外活動に対する支援」については、サークルや部活動、がないこと、コロナ禍でフィールドワークや学校祭が実施されなかったことが影響している。

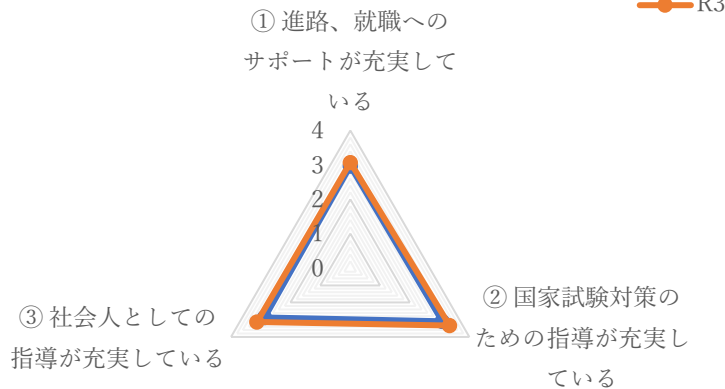
F 学生生活全般について

● R2
● R3



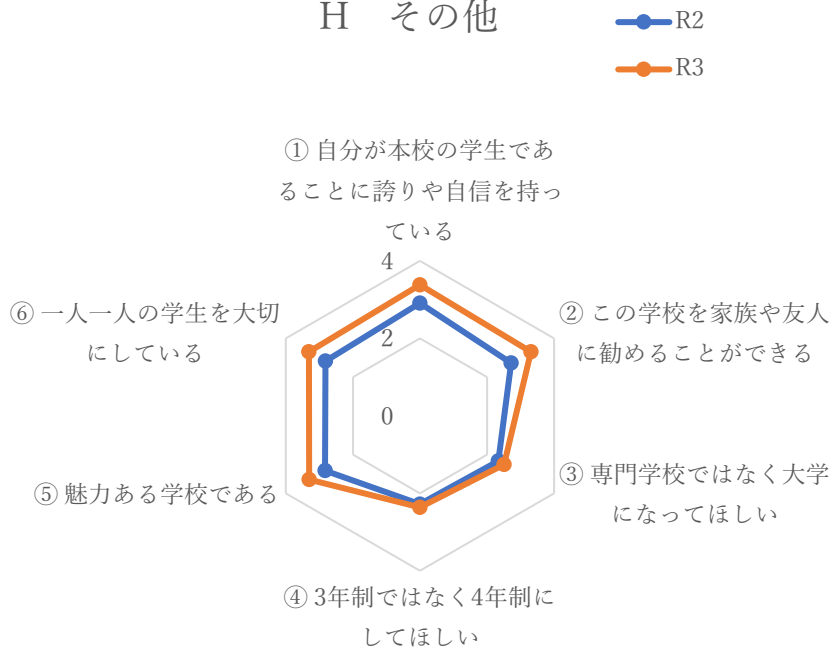
全ての下位項目で前年と比較して向上している。⑤「通学のための交通がよい」については前年度のデータなし。

G 進路・就職サポート体制



全ての下位項目で、前年と比較して微増している。

H その他



全ての下位項目で、前年と比較して向上している。なかでも、②「この学校を家族や友人に勧める」については 2.72 → 3.30 と 0.58 ポイント増加している。

③「専門学校ではなく大学になってほしい」と④「3年制ではなく4年制にしてほしい」はともに3ポイント未満の低値である。本年度の学生は3年制学生であり、4年制化については関心が低いと推測できる。

10. 総評

外部委員を含めた運営協議会を実施し、評価を行った。外部委員から以下のようなご意見があった。

- ・医学部看護学科であると医学部のカラーが強くなり、看護学科としてどのようにしていくかが難しいが、看護としてどうするのかという視点での取組が印象的でとてもよい。
- ・4年制となったことで間延びがあり、4年間でどう自主的にやってもらうかが大きな課題となる。新しい看護を取り入れたり、学生参加型を導入したりと、様々な取組をされている。その志を大事にしてもらいたい。
- ・実習施設が充実していることがありがたいことであるということを学生自身が感じてもらうようなアプローチを行ってほしい。